

自分の作品を 一から創る喜び

年に一度の
ファッションショーに向けて

高辻奈緒さんと中島礼乃さんは、普通科情報総合コースファッションデザイン系に所属する三年生。

ファッションデザイン系では、一年生で縫い方など被服製作に関する基本的な知識や技術を学び、二、三年生になると授業は専ら実際の被服製作に時間を割かれる。被服製作の他にも、染め物や小物作りなど、ものを作ることを通じて様々なことを学ぶことを目的としている。

日々の授業を「縫って縫っ

て縫いまくる日々」と表現する。中島さんがこのコースを選んだ理由。それは年に1回

行われるファッションショーに強く憧れたからだという。

嘉穂総合高校では、毎年、生徒の日ごろの学習の成果を発表する「生徒研究発表会」を行っている。

その中でも花形となるイベントが、ファッションデザイン系専攻生徒によるファッションショーだ。このファッションショーでは、生徒が製作した服を自らが着て、全校生徒や訪れた地域の人の前で披露する。ファッションデザイン系の生徒は、ここで披露

紹介してくれた生徒



たかつじ 高辻 奈緒 さん
3年生



なかしま あやの 中島 礼乃 さん
3年生

する被服を製作することが最大の目標だ。

自分が作りたいものを
自分の手で作る

被服製作は、まず自分が作りたい服のイメージを作ることから始まる。雑誌などを参考に、自分が着ている姿を想像しながら作りたい服を決める。

次に行うのが型紙づくり。いわば服の設計図を作る作業で、「一番重要で、難しい工程」であると二人は口を揃える。「一から型紙を作っていくのはとても難しいです。ここで



にしぞの かずよし 西園 和良 教諭

普通科情報総合コースでは、普通教科を学びながら、オフィス、ファッション、アートの系列に分かれ、デザインやコミュニケーションのセンスを磨きます。

オフィスワーク系では、経済の仕組みや経済活動について学び、オフィス業務に生かせる技能や資格を取得していきます。

ファッションデザイン系では、被服について知識を深め、被服製作ができる技術を身に付けます。

アート系では、静止画像の処理や様々な絵画の技法を用いた作品制作などを行っています。

失敗してしまうと、出来上がったときにズレができてしまうので、ミリ単位で丁寧につけていきます」と高辻さんはその大変さを話すが、その分、完成したときの達成感もひとしお。中島さんは、「人の前に出て披露するのは少し恥ずかしいですけど、自分が作りたいものが実際に作って、着ることができるのはとても楽しいです」と笑顔で話す。

今年度の生徒研究発表会は、平成27年1月24日(土)、イイヅカコスモスコモンで開催。ファッションショーに向けた二人の「縫って縫って縫いまくる日々」はまだまだ続く。



1 授業では、プロのモデルを講師に招き、ショーでのウォーキングの練習も実施。
2 ファッションショーの様子。生徒たち自らが製作した自由な発想の被服が披露される。

